

社会福祉法人山麓会 平成 30 年度 事業報告書

平成 30 年度の介護報酬改定率が 6 年ぶりのプラス改定で+0.54%であった事と、特養部門では利用者数が前年度より、+104.3%、在宅部門でも+100.8%であった事から平成 29 年度と比較して、+104.6%の増収になりました。特養部門においては、雨塚らくらく苑が満床になり安定したことと、3 施設の入退所と入院者数が 29 年度より 1/2 になった事がプラス要因であると考えられます。又、在宅部門においては、基本報酬が減算の中、清滝デイサービスのシナップソロジーの導入により 1 日の平均利用者数が+1.9 人、かりやらくらく苑は、地域密着型事業と介護予防の制限もあり新規利用者の獲得が難しく-2.5 人、訪問介護は利用者と提供時間が増加したものの、基本報酬が減算であったため減収。居宅介護支援事業所は、非常勤の介護支援専門員の雇用と利用者数の増加、短期入所の集中減算が無くなり増収になりました。在宅部門においては、通所介護と訪問介護の生活援助は基本報酬の減算だったのですが、利用者数の増加ができた事は、平成 31 年度に向けてはプラス要因であると考えます。

介護人材においては、平成 29 年度同様に、離職者と入職者の比率がほぼ変わらない状況でしたが、職員により働き方を選択できるように、夜勤回数の選択や法人内でのダブルワークができるように改善しました。そのことで、収入を少しでもあげたい職員と、残業や夜勤が苦痛となっている職員のバランスがとれ、離職にストップがかかったと思います。さらに、今年度は新たに 9 名が介護福祉士に合格しました。法人全体で 4 割が介護福祉士の取得になりました。人材不足の中、多くの職員が実務者研修に受講できた事や介護福祉士に合格できたことは、ひとり一人の職員に感謝と共に、資格取得に向けての個人の意識が変わってきたと実感しています。これからは、さらなるスキルアップと定着、質の向上が求められ、法人としても働きやすい環境整備に努め、教育、自己成長につなげていけるようにバックアップしていきます。外国人技能実習制度については、平成 29 年 12 月にベトナムで 4 名採用をしましたが、平成 30 年度中の就業には結びつきませんでした。現地での日本語検定に 2 名が N4 に合格できたのですが、残り 2 名は不合格であった為、平成 31 年 3 月に、再度、現地に出向き、合格者 2 名については 6 月に入国で調整し、不合格者 2 名については辞退していただき、新たに N4 と N3 の合格者 2 名を採用で 8 月に入国、さらに、次年度に 3 名の採用を決定しました。採用から就業まで 1 年 6 ヶ月と時間を要しましたが、職員の意識や準備期間としては十分な時間であったと考えます。

地域交流については、近隣の祭りに例年通り参加でできた事と、雨塚らくらく苑を地域交流の場として、2 月より認知症カフェを毎月 2 回開催できるようになりました。さらに、認知症サポーター研修のキャラバンメイトに 2 名が所属しており、地域での勉強会に講師として派遣できるようになりました。平成 30 年度に目標とした「地域にでかける」「施設に来ていただく」は、少しずつですが、実現できてきているように思います。平成 31 年度（令和元年度）も、事業計画に掲げているように、一歩ずつ前進し、成長できる施設運営をめざしていきます。

清滝らくらく苑

【活動結果】

- ①多職種連携により、インフルエンザ等の感染症対応に取組み、感染者を出す事なく対応ができた。
- ②職員とのコミュニケーションを図り、職員の働きやすい環境整備に努める事ができたが、離職者を防ぐまでに至ってない。
- ③非常勤パートや多職種と協力し、外出等の全体行事を実施する人員確保ができ、ご利用者に季節を感じていただける取組ができた。
- ④多職種との連携を強化し早期対応ができたが、入院者が重なる事で空室状況が多々あり、短期入所や時期特養入居者の調整に時間を要し課題となった。
- ⑤経験年数の浅い職員が多いなか、ケアプランに沿ったケアを行えたが、職員一人ひとりのスキルアップの必要がある。

(1) 生活援助

- ①ご家族と相談しながら、ご利用者が穏やかに過ごして頂けるような環境整備を行えた。
- ②各ユニットで情報共有を意識して取組むが、情報の伝達が抜ける事があった。
- ③多職種と連携を図り、ご利用者の状態変化に対応し援助ができた。
- ④ご利用者の望む暮らしを考え、その人らしい生活がおくれるような援助ができた。

(2) 食事

- ①管理栄養士と委託給食会社と協力し、衛生的で安全な食事を提供することができた。
- ②多職種と相談しながら、ご利用者の状態に合った食事形態を検討し提供することができた。
- ③食事行事を計画し、食の喜びを感じていただけた。

(3) 医療・保健衛生

- ①人員が少ない状態であったが、医務との連携を図る事で対応ができた。
- ②インフルエンザ等の感染症を意識し、熱発者の居室対応を行い、感染症を防ぐ取組ができた。
- ③ご利用者の高齢化や重度化が進み、多職種と連携を強化しながら、日々の健康管理や日常の観察を行う必要がある。

(4) 余暇活動

- ①年間行事を開催し、ご利用者に季節を感じていただく事ができた。
- ②ユニット主体の行事計画が、前年度より取組めた。
- ③非常勤職員の多いとき等に、外出や散歩にお連れし余暇の時間を楽しんでいただけた。

(5) 家族との連携

ご利用者やご家族のニーズを把握し、ユニットと話し合いケアに繋げる事で、ご家族との信頼関係に努める事ができた。

(6) 地域交流

ボランティアの受入があった際は、デイサービスと連携を図りご利用者をお連れし、地域行事に参加する事で楽しんでいただけた。

(7) 環境整備

- ①ご利用者のADLにあわせ、ユニット主体で環境整備に取組めた。
- ②施設設備に故障等の不備があったが、修理依頼をかけ対応ができた。

【ショートステイ】

《活動結果》

他事業所と密に連絡を取り、ケアマネジャーとご家族の意向に沿って対応する事で、新規利用の確保ができ、定期のご利用者とご家族の信頼関係を構築する事で、リピーターやロングショートの確保もできた。

《目標達成の行動実績》

- ①ユニット内でのレクリエーションだけでなく、デイサービスと連携を取り余暇活動の強化ができた。
- ②ご利用者とご家族の意向を確認し、個々のニーズに即した援助ができたが、ユニットとの連携を強化する必要がある。
- ③ご家族や担当ケアマネジャーと、こまめに連絡をとり報告することで、信頼関係が構築できた。

【西2丁目】

《活動結果》

今年度の後半は新規のご利用者も多く利用され、相談員と連携し情報収集に努め、在宅生活の延長と意識を持ち、受入れ体制を整えた。

《目標達成の行動実績》

- ①職員同士において、普段の状態等何かあれば伝達しあう事ができた。
- ②共用スペース内においては入居者に合わせた配置を考え、各居室においてもフェイスシート或いはその方の希望をお聞きし、家のような空間作りができた。
- ③施設の中でできる事に限界はあったものの、基本的にはご希望に沿う事ができた。

【東3丁目】

《活動結果》

共同生活室の設えを変更した。又、ベランダに花壇を整備し喫茶ができる空間が作れた。

《目標達成の行動実績》

- ①ご利用者、ご家族としっかりコミュニケーションを取り個々に合ったケアを行なえた。
- ②課題は他部署と連携を取りながら解決できる様に心掛けた。
- ③体調変化の早期発見に努めていたが、入院のご利用者が多い。引き続き体調管理に努めていく。

【西3丁目】

《活動結果》

ご利用者の好きな事や、リクエスト等を聴き、行事や生活スタイルに取り入れさせて頂き、ご利用者の好みに合わせた生活を提供する事ができた。

《目標達成の行動実績》

- ①ご家族と情報共有しながら、ご利用者の好み等を聴き取り、日常生活や行事に取り入れた。
- ②ご利用者とコミュニケーションを取り、昔ながらの音楽を流し、日々の生活に快適な時間を提供できた。
- ③担当職員がご利用者の好み等を考え、行事計画を立て中心となり実行する事ができた。

【南3丁目】

《活動結果》

職員一人ひとりが、ご利用者の声に耳を傾け寄添い、個々のケアについて常に考えを持ちながら業務を行う事ができていたと思うが、それについての意見交換等の情報共有が十分ではなかった。

《目標達成の行動実績》

- ①個々の情報をしっかりと把握し、自立支援を意識し過剰介助にならないように、ご利用者一人ひとりのケアはできていたと思うが、専門職としての知識や技術の向上という点では十分ではなかった。
- ②ADLが低下しているご利用者も増えていく中で、今一番望ましいケアについて考え支援はできていたと思うが、ケアを行う際のリスクについての意識を持つという点では十分ではなかった。
- ③職員一人ひとりがケアを行う際、しっかりと自分の考えを持ち一つ一つの支援に対して責任感を持っていたという点では出来ていたと思うが、それについての意見交換や情報共有は会議等の話し合いの場では行えていたが、日々の現場の中では十分ではなかった。

【東4丁目】

《活動結果》

ご利用者の生活リズムを尊重し、ケアプランに沿った介助が前年度よりできた。

《目標達成の行動実績》

- ①緊急を要する、又は大事な要件は伝達できたが、発注や食事箋等の提出に関しては、伝達が曖昧な事もみられた。
- ②他ユニットへの応援に行く事は心掛けたが、他ユニットの些細な変更点等は把握できなかった。
- ③ご利用者に合ったレクリエーションを思案するも、実行できた事が限られていた。

【西4丁目】

《活動結果》

ご利用者が自分でできることは維持できるよう援助する意識はしっかりと持てるようになったがご利用者が自分のペースでの生活ができたとは言いづらく職員のペースになってしまうことが多かった。

《目標達成の行動実績》

- ①排泄に関して、尿意の訴えがあるご利用者が多い為、職員が決めた定時のトイレ誘導ではなく希望時のトイレ誘導を心掛けたが、習慣化してしまった時間の声掛けを職員が結局してしまい、ご利用者の希望時に必ずしもトイレに誘導できていたわけではなかった。
- ②基本的には自立支援を促せていたが、職員の時間がないときなどは職員が介助してしまうことが多かった。職員にも限りがあり、なかなか自立支援も促すことが難しくなっていた。
- ③向きあう姿勢はあったものの、ご利用者一人ひとりの想いに気づくという深いところまでは到達できなかった。

【南4丁目】

《活動結果》

職員ひとり一人はご利用者が穏やかに過ごせるよう時間に許す限り寄り添う事はできたと思うが職員の専門職としてのスキルアップという点では十分ではなかった。

《目標達成の行動実績》

- ①職員が常にご利用者の事を考え、何かあれば意見を出し合い、ご利用者のケアの意見交換はできた。しかし、職員ひとり一人の思いや価値観の違いなどもありチームワークという点では十分ではなかった部分があった。
- ②1年を振り返り、ご利用者の入院や退所が多くあった。引き続き状態の観察と他部署との連携をしっかりととり、一日でも長く生活できるように支援していく。

- ③ご利用者とのコミュニケーションはもとより、職員同士が積極的に意見を出し合う事により共同スペースにも設えにも気を配り、変更する事があればその都度変更し、ご利用者にとっても移動しやすく快適に過ごせるユニット作りに努めてきた。

南野らくらく苑

《活動結果》

- ①ケアプランに沿ったケアが行えた。
- ②多職種、職員間のコミュニケーションが取れて安定したケアを行えるようになってきているが離職を防ぐまでに至っていない。
- ③清拭タオルやオムツを無駄に使用しないように、コスト削減に努める事ができた。
- ④ご利用者1名がインフルエンザに罹患したが、多職種の連携により迅速な対応が取れ蔓延を防ぐ事が出来た。
- ⑤ご利用者の変化に速やかに気付き対応できた。

(1) 生活援助

- ①ケアプランに沿った援助は行えている。ご利用者一人一人、その人らしい生活を送れるように努力を続けている。
- ②ご利用者の意思を尊重しながら、その思いに少しでも近づけられるように多職種が連携し援助が行えている。
- ③過剰な介護にならないように自身で出来る事はして頂き、自立支援に努めている。
- ④ご利用者やご家族からの意見や苦情は真摯に受け止め対応できた。
- ⑤快適で穏やかに過ごして頂けるように、環境整備をご家族と相談しながら行えた。

(2) 食事

- ①多職種と協力しご利用者に合った食事形態を検討することができた。
- ②委託給食会社と協力し、衛生的で安全な食事を提供することができた。
- ③ご利用者、各職員へ食事について随時聞き取りを行えた。その意見を元に委託給食会社と協力して献立に反映することができた。

(3) 医療・保健衛生

- ①多職種や嘱託医との連携の基、入院はあったが重篤化を防ぐ事は出来た。ご利用者の高齢化・重症化は進み引き続き連携を強化し観察して行く必要がある。
- ②職員1名と外部からの感染によりご利用者1名がインフルエンザに罹患したが、迅速な対応が取れ蔓延を防ぐ事が出来た。
- ③他施設への応援はあったが、現在ではスタッフの数もうるおい安定しており、看護師間の連携もしっかりと取れた。

(4) 余暇活動

- ①年間行事を滞りなく開催し、季節を感じながら楽しく過ごして頂けた。
- ②毎朝体操の時間を作り、楽しみに参加して下さる入居者も増えている。天気の良い日は外へ散歩にお連れし、喜んで頂けた。
- ③誕生日に外出や外食を楽しんで頂くなど、個別のニーズに合わせて楽しんで頂けた。

(5) 家族との連携

- ①ご家族面会時に日々の様子をお伝えし、また随時相談をさせて頂きながら信頼関係を築けた。

(6) 地域交流

- ①定例の行事でのボランティア受け入れはでき楽しんで頂けた。
- ②年間行事やユニット行事で外出して頂いている。

(7) 環境整備

- ①ユニット毎にご利用者が快適に過ごして頂けるように、環境整備を適宜行っている。
- ②施設の設備等の故障や不備はあったが、ご利用者に支障なく対応できている。

【うめ】

《活動結果》

ご利用者のニーズに寄り添いながら、職員が互いに意見を出し合いかんがえながら、自発てきなケアを行なう事ができた。

《目標達成の行動実績》

- ①職員が日々利用者について気づいた事や知っておいて欲しい事を共有するツールとして、日誌・申し送りノートを活用。それにより、利用者のケアを検討し統一を図る事ができた。
- ②①により職員が介護についての意識を互いに刺激し合い、個々に目標や目的を持って支援の方法を考えてきた。
- ③現時点で定期的な勉強会の開催には至っていない。
- ④ご利用者の生活課題について医療的側面から医務に相談し、他ユニットと協力して見守りを行い、相互に意見の交換や連携を図る事で、新しい知識の構築や交流の幅を広げる事に繋がった。

【さくら】

《活動結果》

ご利用者の要介護度が重度化していくなか、日々の状態の変化に迅速に対応する事ができ、安全、安心な生活の継続を実現させ、将来職員自身が入りたいユニットに繋がった。

《目標達成の行動実績》

- ①職員同士の報告、連絡、相談は日々行う事が出来たが、ユニットの利用者の重度化し、日々の業務内容が増え、職員のストレス度が増していつてしまっているのも更なる業務改善が必要。
- ②ご家族の意向も取り入れながら、利用者の状態に合わせた設えの提供を行なう事ができた。また、インフルエンザ等の感染症の発症も無く、清潔な生活環境を提供する事ができた。
- ③一部利用者のお誕生日には、好きな食べ物を聞きだし、外出行事として実現させるなど利用者の思いの沿った質の高いケアに繋がった。利用者全員の思いを実現させるのが今後の課題となる。

【もも】

《活動結果》

ご利用者一人一人の日々の生活の変化にユニット間で話し合い、入居の視点になって、要望や状態の変化に臨機応変に対応したケアを実施する事ができた。

《目標達成の行動実績》

- ①職員一人一人のご利用者への思いやこだわりが強く、連携や伝達を円滑にできない事が多くなり職員同士の協力がうまくできなかった。
- ②職員同士の意見が合わず独断でケアの変更を行なうケースもあったがないが大事な話し合いをした上で、安楽に過ごしてもらえる空間作りができた。
- ③職員全体でご家族と積極的に会話する事ができ日々の生活の報告や生活歴等を収集する事ができた。

雨塚らくらく苑

【活動結果】

- ①多職種と連携し、身体面を中心にケアの構築をする事ができた。
- ②多職種・委託給食会社と協力して季節に合った食事に関わる行事を実施することができた。
また、ご利用者に食事を通して四季の移り変わりを感じて頂くことができた。
- ③看護師としても専門性を活かした観察及びケアに取り組み、利用者様の安心した生活のための、心の通う看護サービスが提供でき、信頼関係を深めることができた。
- ④職員の意見を情報収集し、シフト管理や、業務改善、職員間の良好な人間関係の構築、悩み事等の相談にのり、職員の働きやすい環境整備に努める事ができた。

(1) 生活援助

- ①居室担当だけではなくユニット職員が一人ひとりに細かく対応することができた。
- ②情報の共有を意識することはできたが、情報の伝達が遅れることがあった。
- ③ご家族とは面会時にコミュニケーションを図り、ユニット職員だけではなく、施設職員全員で協力し信頼して頂けるような関係性を意識できた。

(2) 食事

- ①多職種と協力しご利用者に合った食事形態を検討することができた。
- ②委託給食会社と協力し、衛生的で安全な食事を提供することができた。
- ③ご利用者、多職種へ食事について随時聞き取りを行えた。その意見を元に委託給食会社と協力して献立に反映することができた。

(3) 医療・保健衛生

- ①高齢者である、ご利用者の健康状態を把握し、異常の早期発見とそれに対する対応に努める事ができた。
- ②職員間に連絡、情報の共有を行い、インフルエンザやノロウイルス等、感染症の疑い等あった場合は早めに施設医師や医療機関を受診した事で感染者も出す事態にもならなかった。
- ③ご利用者の日頃の状態をしっかりと観察する事で病気や異常の早期発見に努める事が出来た。
- ④感染症に対する知識を深めて、疑いの段階で早期に受診及び居室対応をとる事で、2次感染の予防ができた。
- ⑤専門職としての知識はもちろん、ご利用者との信頼関係を構築し、心の通う看護サービスの提供に心掛ける事ができた。

(4) 余暇活動

- ①季節ごとの年間行事を開催し季節感を感じて頂くことができた。
- ②ユニット毎の行事は前年度より回数を増やし充実することができた。

(5) 家族との連携

- ①特に新規のご利用者のご家族には、コミュニケーションを積極的にとり、ご利用者・ご家族のニーズを把握し、ケアに繋げていく事で、信頼関係の構築に努める事ができた。

(6) 地域交流

- ①定期的にきて頂いているボランティアの受け入れはしてきたが、より幅を広げたボランティアの受け入れは出来なかったが、例年の地域行事には、各職員が参加できた。

(7) 環境整備

- ①使用頻度の多い備品や家電が破損することが多かったが、ご利用者に不便をかけることなく生活して頂くことができた。
- ②ユニット内の設えは、ユニットリーダーが主となり ADL に合わせた環境整備ができた。

【すみれ】

《活動結果》

申送りや BOX を活用し、職員の声を上がりやすい環境整備が出来た。また、コミュニケーションを増やすことにより、職員の意見収集を増やす事ができ、ご利用者のケア変更をしやすくなった。

《目標達成の行動実績》

- ①情報交換や申し送りを充実することができた。担当意識を持ってもらうため、担当者のケアカンファレンスを考えてもらい、担当者自ら経過をみてもらった。
- ②ご家族とのコミュニケーションを増やし、ご利用者だけではなく、ご家族自身の悩みを聞くことができるようになった。その為、ご家族の信頼を得ることができた。
- ③環境の変化は大きく変わらないが、一人一人の体調や精神面に合わせ柔軟に変更することができた。

【れんげ】

《活動結果》

生活空間で、ゆっくりと自然に集まれる共同スペースを創り、職員としても働きやすい環境整備ができた。

《目標達成の行動実績》

- ①ユニット内の設えをご利用者目線にし、転倒や車椅子の動線に不自由がないように注意した環境にすることができた。
- ②ユニット単独での行事があまり開催できなかったが、日常生活の中でご利用者が気分転換できるように工夫することができた。

【あやめ】

《活動結果》

会議方式の変更で（レジュメ主体方式）議論がスムーズになり、職員間の意見交換が活発になった。通常業務の変更、調整も適宜行い、この2点により、職員間の連携が密になった。また、30年度においては、ケアの変更の際にはモニタリングを必ず行い、職員間に根拠（エビデンス）の重要性を周知するよう努めた。結果、各職員が「家族の目線（希望）、ご利用者の目線（希望）、そして根拠」を意識するようになった。

《目標達成の行動実績》

- ①レジュメ事前に配り、各職員が準備をして会議に臨めるようにした。また、司会進行に置いては、「意見の掘り下げ」を意識し、「却下」はできるだけ無いように努めた。
- ②相談ノートなどを検討したが、ただノートを置くだけでは活用できないと判断し、調整のため、実施できていない。現状ではリーダーが全職員のハブとなり、意見、相談を収集・循環・解決している流れである。
- ③会議の司会進行、意見の集約方法はリーダーが1年間行った結果、ノウハウができたと感じる。今後はこれらを各職員で、できるように伝達、浸透させるよう考える。

デイサービスセンター 清滝らくらく苑

《活動結果・取り組み》

- ①要介護度が重度な方が、在宅での生活（在宅介護）になられる現状が多く、ご自宅での入浴が困難なため、デイサービスでの入浴を目的とされたケースなどを、今年度も積極的に受け入れた。中重度ケア加算の算定（要介護3以上の利用者が30%：直近3ヶ月の実績）
- ②機能訓練のニーズも高く、提供は必須であるため今後も継続させる。
- ③毎月第3日曜日の行事開催は、ほぼ30名以上の参加があり好評であった。企画内容も各月に担当職員を配置し、年間を通し季節を感じて頂ける内容で、非日常的なアクティビティの提供を実施できた。
- ④環境整備として、大型リフト福祉車両の購入。「公益法人 JKA」の、平成30年度競輪公益資金による補助事業に申請し、今年度7月に納車された。
- ⑤「認知症カフェ らくらく-DA」を、H31年2月から月2回雨塚らくらく苑で開催。地域の方やデイ利用者も利用日と重ならない方が利用し、今後はカフェからデイ利用に繋がることも想定される。
- ⑥くすのき広域連合新総合事業のみなしとして、ニーズは少ないが一年間要支援のご利用者を受け入れた。
- ⑦毎月デイ会議を開催し、ご利用者のケア内容、業務改善について話し合い、サービスの質の向上につなげる事ができた。
- ⑧行事の日に合わせて、出張デパートを開催。（H31年6月）特養のご利用者、ショートのご利用者も一緒に買い物を楽しんで頂き、ご利用者やご家族からも好評であった。
- ⑨「シナプソロジー」をH30年10月に導入。インストラクター資格者を4人養成し、毎日のプログラムに取り入れ実施している。ご利用者からも好評で今後も継続する。
- ⑩勤務年数3年超えの職員らが、実務者研修の受講や介護福祉士国家試験への挑戦など、スキルアップを目指した。介護福祉士合格者は3名。

デイサービスセンター かりやらくらく苑

《活動結果・取り組み》

- ① 4月から、総合事業の申請をとりおこなわなかったため、要支援者9名がご利用できなくなり、要介護認定を受けられた利用者のみのご利用で30年度をスタートさせた。
- ② 開苑当初とは、ご利用者の心身の状況、ご利用の目的もかわってきており、居宅介護支援事業者にかりやデイのことを知ってもらおうと努めたが、体験利用者も少なく、新規利用者も少なく、稼働率は50%に満たない状態が続いた。
- ③ 毎日の平均ご利用者が10名に満たない状況だった。体は、元気だが、家族が介護に負担を感じておられるご利用者のご利用の割合が大きくなった。
- ④ 要介護1,2,3の認定を受けられているご利用者のご利用になり、サービス内容の見直しを行い、午後のレクリエーションにデイルーム内を歩く、機能向上レク、脳トレを取り入れ、体を動かそう、頭を動かそう目的にレクリエーションを行った。
- ⑤ デイ通信を発行し、写真を多く載せ、デイサービスの様子、行事の様子、お願いなどをお知らせした。また、ご利用者の担当ケアマネにも配布し、かりやデイを知ってもらうことに努めた。
- ⑥ 各ご利用者の各月のサービスご利用状況などを、担当ケアマネに報告し、ケアマネとの連携に努めた。
- ⑦ 隔月から、毎月のデイ会議を開催、職員の情報の共有、サービスの見直し、業務の改善を話し合い、職員が協力して、サービスを行えるようになった。
- ⑧ ボランティアの協力を得て、舞踊の観覧、カラオケ、オカリナの演奏を聴く機会が持て、楽しい時間をすごせた。
- ⑨ 1カ月に1日、行事を企画し、季節折々の行事を祝ったり、デイルーム内の台所を使って、ご利用者に手伝っていただきながら、季節の料理を作ったりし、とても好評だった、職員による、手作りおやつを提供し、「素朴でいい」「甘くなくていい」と、リクエストがでるほどに喜んでいただいた。

ケアプランセンター 清滝らくらく苑

《活動結果・取り組み》

- ① ご利用者やご家族に寄り添い、ニーズに対する課題分析やアセスメントに努め、早急に対応することでフットワークの良さを実践に移した。
- ② 居宅会議などを通して、介護保険制度の内容確認や新情報を伝達し、理解を深めることができた。
- ③ 地域での交流会や介護支援専門員連絡会や主任介護支援専門員連絡会の開催に際しても中心的役割を果たすことができた。
- ④ 包括支援センターへ出向き、ケアプラン受託に対しての声掛けを行った。
- ⑤ 日常的に事業所内で『報告・連絡・相談』ができるように努め、毎週1回の居宅介護支援事業所内会議では個々のケアマネジャーが会議内容を立案し開催することができた。
- ⑥ ご利用者のニーズ把握に努め、対応に努力した。

- ⑦介護支援専門員現任研修や主任介護支援専門員法定外研修会に積極的に参加し、個々のスキルアップを図った。
- ⑧常にコンプライエンスを意識し、業務にあたった。
- ⑨在宅会議を開催、出席し他部署所との意見交換が図れた。
- ⑩業務の合理化と経費節減に努めた。
- ⑪包括支援センターからも信頼を受けて、支援困難者への担当も積極的に受けた。
- ⑫特定事業所換算Ⅱの算定にともなっての介護支援専門員実習者の受け入れを行った。

ヘルパーステーション 清滝らくらく苑

《活動結果・取り組み》

- ①介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス・緩和型）ケ族の更新を行った。
- ②必要のない生活援助の回数や利用者の身体状況の変化に伴い担当ケアマネとサービスの見直しを行った。変更のない利用者については手順書を最新のものに作り直した。
- ③介護等で、どのヘルパーも計画書・手順書に沿った同じサービスができるよう意見・情報交換を行い、ご利用者にも再度「どのヘルパーが来てもサービスに入れるように計画書、手順書に沿ったサービスを提供します」との説明をした。
- ④30日年度は2名の登録ヘルパー採用があったが、勤務時間や曜日が限定されている、ご利用者増加に向け営業はしているが、入院や入所等で現在 要支援9名、要介護22名と減少。
- ⑤接遇マナーの向上について、研修等の勉強を実施できなかった。
- ⑥毎月登録ヘルパーが研修を計画し、ヘルパー会議で研修会を実施。『移乗・移動の基礎』では初心に戻り研修会の必要性を実感したとの声が多かった。
- ⑦ご利用者情報を共通理解するため、メールや電話だけでなく、事務所内を整備しゆっくり話ができるスペースを設置した。
- ⑧ホワイトボードやノート、SMSの利用で家族や関連機関との連携が図れた。地域の方の情報でご利用者の生活状況の変化を知ることができた。
- ⑨ヘルパー連絡会、施設外研修へ積極的に参加しスキルアップを目指した。ヘルパーステーションとしては初めての親睦会を開催し交流を深めることができた。